

The Chronological Table of Literary Report in Hokuriku Mainichi News Showa No. 2

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-03 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/350

『北陸毎日新聞』文芸関係記事年表稿(昭和篇②)

森 英 一

一 この調査には、今成光利、吉岡広樹、河村美紀、平田佳奈子、若岡 忍の諸氏が協力した。ために資料の採集については若干の個人差が認められるかもしれないが、止むをえない。森が一括して編集、執筆した。記事採録に当っては地方在住作家の文章などでもできるだけ収録した。なお、マイクログフィルムは石川県立図書館と金沢市立図書館所蔵によった。謝意を表したい。

昭和五年

- | | | | |
|----|------------------------|----|---------------------|
| 1 | 小説「小野田軍曹」吉田絃二郎 | 15 | 短歌「新春賦」神田茂雄 |
| 1 | 「来るべき文壇の観測」高須芳次郎 | 22 | 「自然描写に就て」豊島与志雄 |
| 1 | 短篇「三井寺談判」長谷川伸 | 22 | 短篇「父と子」北出義雄 |
| 5 | 「笛と人の物語」小川未明 12日完 | 22 | 詩「郷愁」渥美総夫 |
| 8 | 「革命後のロシヤの演劇」秋田雨雀 15日完 | 22 | 短歌「炭火」武田紫水 |
| 11 | 詩「青春哀詞」和田豹夫 | 22 | 「女についての断想」林逸馬 3・5完 |
| 11 | 短篇「墜落」松田晨一 15日完 | 22 | 短歌「冬のうた」西出茶鳩 |
| 11 | 短歌「海辺巖」長 元正 | 29 | 「近代性と文学」芳賀融 2・5 3回完 |
| 12 | 小説「呪曲」高橋掬太郎 6・29 166回完 | 29 | 短歌「汽車に乗る前」白石たか子 |
| | | 29 | 「明日の大衆文学」貴司山治 |
| | | 29 | 詩「屋根上の時計」中村庄真 |
| | | 29 | 詩「ふゆのうみ」安井夫章 |
| | | 29 | 「嬰兒」武田麟太郎 |
| | | 29 | 詩「松原小唄」武田幸一 |
| | | 29 | 「或る朝の出来事」今紺誠一 |
| | | 29 | 詩「希願」和田豹夫 |
| | | 29 | 「芸術に於ける原子論に就いて」石浜金作 |
| | | 29 | 詩「生活に喘ぐ」莊俊彦 |

- 八

- | | | | | | | |
|------------------|--------------------------|----------------------|-----------------|----------------------------|--------------------------|-----------------|
| 5 | 3 | 30 | 27 | 21 | 18 | 11 |
| 「感想のリアリズム」石浜金作 | 「老婦人の思出・ラスキンに絵を習った女」松村武雄 | 「街上の事件」莊俊彦 | 「新芸術派への翹望」上林曉 | 「生活のもと」川端康成 | 「赤いアルバム」池田能雄 | 「新芸術派への翹望」上林曉 |
| 「詩」沖野矢咲 | 「短歌」うた」大崎悦郎 | 「書きなぐる」沖野美咲 | 「短歌」曲芸団」平田他駛郎 | 「詩」雜詠」沖野矢咲 | 「雨の日」青木茂治 | 「短歌」曲芸団」平田他駛郎 |
| 「短歌」賀茂神社に詣で」松本貞村 | 「短歌」永平寺行」出口春葩 | 「花三篇」古賀富士彦 | 「詩」マダム可愛いや」大関五郎 | 「詩」都会暮景」栗山博 | 「新開地と象」和田豹夫 | 「詩」マダム可愛いや」大関五郎 |
| 「童話」汽車の中」小川未明 | 「淳子とその村」村上ひろし | 「不景氣風」中島忠 | 「街」上」莊俊彦 | 「所謂芸術派」高見順 | 「演劇運動の敗北主義」北村喜八氏を駁す」池田壽夫 | 「詩」母」小谷善男 |
| 「欠」 | 「墜道を出た春景」西川武治 | 「詩」白い蝶が踊るよ」森田緑雨 | 「書」き」な」ぐる」沖野美咲 | 「短歌」松の芽」並木秋人 | 「母」母」小谷善男 | 「詩」母」小谷善男 |
| 「記事」島田清次郎世を去る」 | 「詩」都會暮景」栗山博 | 「プロ演劇私見」新興劇団の今後」小森三好 | 「詩」三篇」古賀富士彦 | 「短歌」田廻る」宇野氣菊雄 | 「新開地と象」和田豹夫 | 「詩」母」小谷善男 |
| 「短歌」賀茂神社に詣で」松本貞村 | 「詩」都會暮景」栗山博 | 「プロ演劇私見」新興劇団の今後」小森三好 | 「詩」三篇」古賀富士彦 | 「批評に現はれる批評家の心理」稻葉信之 | 「新開地と象」和田豹夫 | 「詩」母」小谷善男 |
| 「童話」汽車の中」小川未明 | 「詩」都會暮景」栗山博 | 「プロ演劇私見」新興劇団の今後」小森三好 | 「詩」三篇」古賀富士彦 | 「詩」どぐま」松本ろうし | 「新開地と象」和田豹夫 | 「詩」母」小谷善男 |
| 「欠」 | 「詩」都會暮景」栗山博 | 「プロ演劇私見」新興劇団の今後」小森三好 | 「詩」三篇」古賀富士彦 | 「詩」踊る女たち」池田能雄 | 「新開地と象」和田豹夫 | 「詩」母」小谷善男 |
| 「記事」島田清次郎世を去る」 | 「詩」都會暮景」栗山博 | 「プロ演劇私見」新興劇団の今後」小森三好 | 「詩」三篇」古賀富士彦 | 「詩」恋」足立美江 | 「新開地と象」和田豹夫 | 「詩」母」小谷善男 |
| 「短歌」賀茂神社に詣で」松本貞村 | 「詩」都會暮景」栗山博 | 「プロ演劇私見」新興劇団の今後」小森三好 | 「詩」三篇」古賀富士彦 | 「詩」裏町素描」栗山博 | 「新開地と象」和田豹夫 | 「詩」母」小谷善男 |
| 「童話」汽車の中」小川未明 | 「詩」都會暮景」栗山博 | 「プロ演劇私見」新興劇団の今後」小森三好 | 「詩」三篇」古賀富士彦 | 「短歌」風景」松本克二 | 「新開地と象」和田豹夫 | 「詩」母」小谷善男 |
| 「欠」 | 「詩」都會暮景」栗山博 | 「プロ演劇私見」新興劇団の今後」小森三好 | 「詩」三篇」古賀富士彦 | 「詩」先業者の詩だ」園路まゆみ | 「新開地と象」和田豹夫 | 「詩」母」小谷善男 |
| 「記事」島田清次郎世を去る」 | 「詩」都會暮景」栗山博 | 「プロ演劇私見」新興劇団の今後」小森三好 | 「詩」三篇」古賀富士彦 | 「短歌の形式に就て」プロレタリア歌人に問ふ」武田紫水 | 「新開地と象」和田豹夫 | 「詩」母」小谷善男 |
| 「短歌」賀茂神社に詣で」松本貞村 | 「詩」都會暮景」栗山博 | 「プロ演劇私見」新興劇団の今後」小森三好 | 「詩」三篇」古賀富士彦 | | 「新開地と象」和田豹夫 | 「詩」母」小谷善男 |
| 「童話」汽車の中」小川未明 | 「詩」都會暮景」栗山博 | 「プロ演劇私見」新興劇団の今後」小森三好 | 「詩」三篇」古賀富士彦 | | 「新開地と象」和田豹夫 | 「詩」母」小谷善男 |
| 「欠」 | 「詩」都會暮景」栗山博 | 「プロ演劇私見」新興劇団の今後」小森三好 | 「詩」三篇」古賀富士彦 | | 「新開地と象」和田豹夫 | 「詩」母」小谷善男 |
| 「記事」島田清次郎世を去る」 | 「詩」都會暮景」栗山博 | 「プロ演劇私見」新興劇団の今後」小森三好 | 「詩」三篇」古賀富士彦 | | 「新開地と象」和田豹夫 | 「詩」母」小谷善男 |
| 「短歌」賀茂神社に詣で」松本貞村 | 「詩」都會暮景」栗山博 | 「プロ演劇私見」新興劇団の今後」小森三好 | 「詩」三篇」古賀富士彦 | | 「新開地と象」和田豹夫 | 「詩」母」小谷善男 |
| 「童話」汽車の中」小川未明 | 「詩」都會暮景」栗山博 | 「プロ演劇私見」新興劇団の今後」小森三好 | 「詩」三篇」古賀富士彦 | | 「新開地と象」和田豹夫 | 「詩」母」小谷善男 |
| 「欠」 | 「詩」都會暮景」栗山博 | 「プロ演劇私見」新興劇団の今後」小森三好 | 「詩」三篇」古賀富士彦 | | 「新開地と象」和田豹夫 | 「詩」母」小谷善男 |
| 「記事」島田清次郎世を去る」 | 「詩」都會暮景」栗山博 | 「プロ演劇私見」新興劇団の今後」小森三好 | 「詩」三篇」古賀富士彦 | | 「新開地と象」和田豹夫 | 「詩」母」小谷善男 |
| 「短歌」賀茂神社に詣で」松本貞村 | 「詩」都會暮景」栗山博 | 「プロ演劇私見」新興劇団の今後」小森三好 | 「詩」三篇」古賀富士彦 | | 「新開地と象」和田豹夫 | 「詩」母」小谷善男 |
| 「童話」汽車の中」小川未明 | 「詩」都會暮景」栗山博 | 「プロ演劇私見」新興劇団の今後」小森三好 | 「詩」三篇」古賀富士彦 | | 「新開地と象」和田豹夫 | 「詩」母」小谷善男 |
| 「欠」 | 「詩」都會暮景」栗山博 | 「プロ演劇私見」新興劇団の今後」小森三好 | 「詩」三篇」古賀富士彦 | | 「新開地と象」和田豹夫 | 「詩」母」小谷善男 |
| 「記事」島田清次郎世を去る」 | 「詩」都會暮景」栗山博 | 「プロ演劇私見」新興劇団の今後」小森三好 | 「詩」三篇」古賀富士彦 | | 「新開地と象」和田豹夫 | 「詩」母」小谷善男 |
| 「短歌」賀茂神社に詣で」松本貞村 | 「詩」都會暮景」栗山博 | 「プロ演劇私見」新興劇団の今後」小森三好 | 「詩」三篇」古賀富士彦 | | 「新開地と象」和田豹夫 | 「詩」母」小谷善男 |
| 「童話」汽車の中」小川未明 | 「詩」都會暮景」栗山博 | 「プロ演劇私見」新興劇団の今後」小森三好 | 「詩」三篇」古賀富士彦 | | 「新開地と象」和田豹夫 | 「詩」母」小谷善男 |
| 「欠」 | 「詩」都會暮景」栗山博 | 「プロ演劇私見」新興劇団の今後」小森三好 | 「詩」三篇」古賀富士彦 | | 「新開地と象」和田豹夫 | 「詩」母」小谷善男 |
| 「記事」島田清次郎世を去る」 | 「詩」都會暮景」栗山博 | 「プロ演劇私見」新興劇団の今後」小森三好 | 「詩」三篇」古賀富士彦 | | 「新開地と象」和田豹夫 | 「詩」母」小谷善男 |
| 「短歌」賀茂神社に詣で」松本貞村 | 「詩」都會暮景」栗山博 | 「プロ演劇私見」新興劇団の今後」小森三好 | 「詩」三篇」古賀富士彦 | | 「新開地と象」和田豹夫 | 「詩」母」小谷善男 |
| 「童話」汽車の中」小川未明 | 「詩」都會暮景」栗山博 | 「プロ演劇私見」新興劇団の今後」小森三好 | 「詩」三篇」古賀富士彦 | | 「新開地と象」和田豹夫 | 「詩」母」小谷善男 |
| 「欠」 | 「詩」都會暮景」栗山博 | 「プロ演劇私見」新興劇団の今後」小森三好 | 「詩」三篇」古賀富士彦 | | 「新開地と象」和田豹夫 | 「詩」母」小谷善男 |
| 「記事」島田清次郎世を去る」 | 「詩」都會暮景」栗山博 | 「プロ | | | | |

- 16 短歌「青蚊帳」西出茶鳩
「一個の三角錐」清水真澄 23日完
- 23 詩「関東東北の旅」東孝朔
「芸術派の自己解剖」舟橋聖一 30日完
- 短歌「夏」鈴見香梅二
- 短歌「傷心断片」平田他史郎
- 詩「亡き日子を懐ふ」山谷善男
- 詩「ひるどき」青木茂治
- 30 詩「坑夫の唄」武田幸一
- 「芸術の断面」北園克衛 8・6 2回完
- 8 6 「文学形式の展望」高井徹夫 13日完
- 13 「河崎夫婦の話」小原俊一郎 20日完
- 20 「夏日雑筆」水守亀之助 9・3 3回完
- 詩「生きる」和田豹夫
- 民謡「あのお方」大関五郎
- 短歌「香煙」妻川亮
- 27 「夏の手帳から」阿部知二
- 詩「製紙工場風景」安井夫章
- 9 3 「こんな兵卒さん」立野信之
- 10 「文学の問題再吟味」島影盟
- 詩「情人に」小田不二夫
- 「或る朝」後藤綾子
- 17 「プロ音楽入の序」佐藤敏
- 24 「北陸口語歌誌『新短歌』へ」足立美江
- 「科学的文学に就て」村岡達二
- 詩「裏町風景」安井夫章
- 「東京映像」八野井実 10・15 4回完
- 短歌「東氏歓迎の歌」西出茶鳩
- 10 1 詩「咲子の詩」東孝朔
- 8 短歌「途上」渥美稔夫
- 「一日浜で遊ぶ」鈴見香芽二
- 15 「杉江重英第二詩集『骨』を評す」小島貞一 22日 3回完
- 詩「稻刈り」宇野氣百雄
- 詩「薄暮と少女と」青木茂治
- 短歌「秋日雑詠」鈴見香芽二
- 22 「太る奴は太る」小野勇
- 詩「耐へる！」足立美江
- 詩「空」中村庄貞
- 29 「人関に関する感想」高見順
- 短歌「立ち止りて」長元正
- 短歌「更生の秋」北野繁樹
- 詩「米価下落だ」宇野氣百雄
- 短歌「草に寝て」妻川亮
- 詩「鉦鉄のような彼」安井夫章
- 11 5 「優しい眼・凄しい眼」稻葉信之
- 短歌「秋と俺」谷内外茂二
- 短歌「湖の朝風」岡田稔
- 12 「作劇術の改变」清水真澄
- 「ゴルフと天麴羅」舟橋聖一
- 詩「秋」北野耕
- 詩「続米価下落だ」宇野氣百雄
- 19 小品「僕のパイプ」堀辰雄
- 詩「工場にいるAに」房山幸夫
- 詩「安価なる存在」山谷善男
- 詩「インテリ精算」檜信衛
- 26 「映画の文学（導入は可能か）」鹿地亘

- 12 3 " 「佐成謙太郎氏の『謡曲大観』を見て」坂元雪鳥
" " 「『同伴者的』と『我らの文学』と」高見順
" " 短歌「港の夜」鈴見香芽二
" " 詩「草と風と」中村庄真
10 " 「革命後のロシア文学」木村春樹 17日完
" " 詩「敗北の恋愛」渥美稔夫
" " 短歌「従弟の死」小松光葉
" " 「吉祥寺通信」土居千一郎 17日完
17 " 詩「墜ちてゆく」牧雄作
" " 短歌「小雨」三田敬次郎
24 " 「場末の感想」那珂孝平
" " 短歌「紅燈風景」聖以智
" " 詩「働かせないとき」安井七史
- 昭和六年
- 1 1 「浮浪第一步」下村千秋 3日完
" " 短歌「椿と鶉」若山喜志子
" " 「疑問のたわごと」岸虹岐 3日完
" " 「三河万歳」土師清二
" " 俳句「初雪」岩谷小波
" " 落語「初夢」蝶花樓馬楽
" " 短歌「祝頭雪」佐々木信綱
3 " 講談「竹篋の水仙」昇龍齋貞丈
" " 短歌「田家」高浜虚子
" " 「モダン今昔物語」高須芳次郎
4 " 「踊り子マリ子的一天」中村武羅夫 6日 3回完
" " 記事「犀川の印象は満州の花松江・与謝野寛、晶子来沢」

- 7 " 「一九三〇年の文壇回顧」邦江完二 14日完
" " 短篇「アジアの兵隊」Y・K生 14日完
" " 短歌「五首」中村滋子
" " 詩「年暮れの話」宇野氣百雄
9 " 北陸の歌行脚に快心の收穫(記事) ※与謝野寛13首、与謝
" " 野晶子9首
13 " 「恋愛黒点」正木如丘 8・21 173回完
14 " 短歌「山の湯」鈴木香芽二
" " 詩「年末雑首」谷内外茂二
" " 詩「春と呪はれた田園」山谷善男
21 " 「一九三一年の文壇を論ず」森下才一郎 2・4 3回完
" " 詩「惨めな女工」玉井玉枝
" " 詩「風」北野能璃二
" " 「学級経営案」むらさき・しゅ
28 " 詩「最後の一頁」中村庄真
2 " 「農民詩の開拓へ」青木冬一郎 11日完
" " 詩「曇る田園」安井夫章
" " 詩「大寒の入る日」北野耕
11 " 詩「生けるけはひ・深雪の家・子を泣かす」東孝朔
" " 「文壇に於ける面白さに就て」鹿地亘 18日完
" " 詩「テロリストであつた犬」近沢五茂
" " 短歌「たにしの歌」和沢昌治
" " 詩「歩む」中村庄真
18 " 詩「静かな部屋」谷内外茂二
" " 詩「山の耕地」冲野矢咲
" " 短篇「モデルノロヂオ」池田能雄
" " 詩「梅其他」近沢五茂
25 " 「小説に於ける類型的人物」阿部知二

- 詩「パイプとねむってゐる僕」山本玲二郎
 詩「スタイル」東孝朔
 短歌「病臥雑詠」碧聖二
 「穏やかな方針」小野勇
 「孔雀の歌」橋瓜彦七 9・3 181回完
 「文学と遊戯」岡沢秀虎
 短歌「雪ふる日」鈴見香芽二
 詩「朝」諏訪白次郎
 短篇「時髦結婚」志納原正 11日完
 「黒髪因果経」下村悦夫 11・5 20回完
 「ルンペン文学」山田清三郎
 詩「展春」東孝朔
 詩「蚊とんぼ」谷内外茂二
 「政治と芸術」山田清三郎
 詩「父の急死」宗広忠一
 「新短歌の批判」岡田猛 25日完
 詩「春日遅々」宇野氣百雄
 詩「叫び」板津まさ映
 詩「不機嫌な朝」三好与一
 短歌「春感私抄」西出茶鳩
 詩「冬ぞら」山田星策
 「小説と人間」舟橋聖一 4・1完
 詩「夜鳴る時計」今住武夫
 詩「人生」汐凡二
 詩「春ともなれば」阿南哲郎
 詩「平和なる春光」山谷善男
 短篇「泣いた太陽」狩野敬止郎
 「最近の文学を評す」中野晴介
- 詩「農婦の唄」松村又一
 詩「病床呼吸」沖野矢咲
 短篇「因人の友達」星森鶴夫
 詩「誕生」小笠原啓介
 詩「望遠鏡と太陽」津沢遣和路
 「農民文芸の重大性」犬田卯
 詩「無題」沖野矢咲
 詩「どん底の町」淀川千鳥
 詩「春四題」山下聖夫
 詩「理想」飯高矩規
 詩「街に挨拶」山本玲二郎
 詩「犀川畔の柳に」近沢五茂
 短篇「四人の友達」星森鶴夫
 「批評と研究」山田清三郎
 短歌「就職戦線」谷内外茂二
 詩「どうでもいいのではない」野咲紅一郎
 短篇「香具師の妻」武部葭尾 29日完
 詩「青空を慕ふ」武淵郷江
 「珍しい顔触れで今夜開く文芸講演会」（記事、講師・大宅壮一郎・下村千秋・島中雄作）
 「都市社会学」伊福部隆輝 5・6完
 短歌「わびしさ」糸井武子
 詩「あばれてやるのだ」谷内外茂二
 短歌「郊外散策」鈴見香芽二
 「小説の始源を探る」遠山宣二 6・3 6回完
 詩「施盤工」鳥居武
 短歌「若き日」泉白水
 「プロ文学に関する最近の感想」徳永直

- 13 「文芸戦線に分裂起る 細田源吉氏等を除名」(記事)
 「租界地の人達」 雅川滉
 詩「飛行機」 木戸逸朗
 詩「夕飼時」 鳥居武
 短歌「母よ!」 白嶺清作
 短歌「病院生活」 山下聖夫
 詩「行春」 近沢五茂
 「富山房大英和辞典の感想」 永井柳太郎
 「街のファウスト」 新居格
 詩「都市居住者」 近沢五茂
 「病後の感想」 一戸務 27日完
 詩「病後の明暮れ」 山下聖夫
 「季節の瞳」 新居格
 詩「恋かしら」 東司蒨
 詩「夏、村、詩」 深田泥蓮
 短歌「晚春賦」 握見稔夫
 「プロ文学と形式」 立野信之 10日完
 詩「朝の思ひ出」 山下聖夫
 「芸術に於けるフレッシユの本質」 安倍浩 24日 4回完
 詩「浜辺」 深見冒志
 「故郷のこと」 池田能雄 24日 3回完
 詩「欺されるものか」 深田泥蓮
 詩「労働・生活」 木戸いち路
 記事「エログロ全盛、マルクス物が圧倒された市内の読書傾向」
 17 「正しい意味の農民文学」 紫田賢一 24日完
 詩「都会風景」 木戸逸朗
 詩「窓外の一角」 浦瀬白雨
- 24 短歌「梅雨」 山下聖夫
 詩「彼の女の心」 東司蒨
 詩「初夏」 木戸逸朗
 「より広汎な社会相を」 神近市子
 短歌「有明の溪谷」 八田ゆき緒
 短篇「真珠色の朝」 城しづか
 詩「病後の感情」 木戸逸朗
 詩「入営」 深田泥蓮
 短歌「逝く六月」 山下聖夫
 短歌「恐慌時代」 田中忠一郎
 「芸術への一歩前進」 青野季吉 15日完
 詩「専門僧堂の朝」 妻川亮
 詩「詩二篇」 飯野晃二
 詩「俺は俺だ」 脇田竹雄
 「二つの感想」 中川与一
 「実話と実話文学」 松浦泉三郎 29日完
 短歌「雑詠」 和田卓郎
 短歌「山嶺で詠ずる」 八田ゆき緒
 「街道一章」 十一谷義三郎
 詩「ハレムがある」 八田浩
 記事「北陸歌壇総合誌『葺附』創刊に際して」
 「こいういふ月評が欲しい」 中條百合子
 詩「黒土」 深田泥蓮
 詩「機関車暮景」 栗山博
 「旅と民謡」 四辺尚雄 6日完
 8 「ルンペン」の文学と文学のルンペン性「伊福部逢輝」 12日完
 5 短歌「さみだれ」 高塚耕圃
 短篇「枇杷の木のある家」 宇部寅之助 12日完

- 〃 短篇「重貞」富田千秋
 12 詩「雨にぬれて」深田泥蓮
 〃 詩「頽廢」木戸逸朗
 〃 詩「貧しい歌」八田ゆき緒
 19 「百貨店の散歩道」田中義
 〃 「かみなり二題」水島爾保布 26日完
 〃 詩「燃ゆる心象」古賀富士彦
 23 記事「文豪ゴースト今秋来朝か」
 25 「太陽を貫く」大滝鞍馬 7・6・28 157回完
 26 「子規の千代尼」中本恕堂 9・2完
 〃 詩「想像の道」八田ゆき緒
 〃 短歌「飛行機の歌其他」鈴見香芽二
 〃 詩「雲の詩―断章―」木戸逸朗
 〃 短歌「黄昏即題」長元たづし
 9 2 「ジャーナリズムの動向と純文芸の衰亡」神近市子 9日完
 〃 詩「蜘蛛」木戸逸朗
 〃 詩「煙突を見る」妻川亮
 〃 詩「浴場」逸名氏
 〃 短歌「九十九湾雑詠」暁鳥敏
 3 詩「能登の秋―都の友に捧ぐ二題」深田泥蓮
 〃 「新文芸運動におけるファッショシズムの位置」堀井実 6
 〃 回完
 4 「蝕める世紀」今東光 7・4・16 220回完
 9 「宇奈月温泉夜話」岩村一木 16日完
 〃 詩「病院風景」木戸逸朗
 〃 詩「初夏短草」山下聖夫
 〃 詩「仰いで見た詩」八田ゆき緒
 〃 詩「野良で」深田泥蓮
 〃 16 「白水樓物語」太信田生 10・14 5回完
 〃 詩「白い烟」深田泥蓮
 〃 詩「小詩五篇」東光朔
 〃 短歌「金沢市」八田ゆき緒
 23 「秋」浅原六朗
 〃 短歌「月夜の里」西出茶鳩
 〃 短歌「秋風の中に」妻川亮
 〃 詩「季節のうつりかはり」飯野晃二
 〃 記事「幼い人々も出る童話大会」
 〃 短篇「喫煙癖」佐々木俊郎 10・7完
 30 短歌「プロ短歌」八田ゆき緒
 〃 詩「朝は喜びではない」緒田浩
 〃 詩「歌ふ」木戸逸朗
 〃 短歌「河原」島村喜代夫
 10 7 短歌「暁に目覚めて」鈴見香芽二
 〃 短歌「甦生への歌」佐和谷芳緒
 〃 「沈滞期にある金沢詩壇」木戸逸朗
 14 「外的現実と内的現実」青野季吉 21日完
 〃 詩「竹林の詩」木戸逸朗
 〃 詩「秋風」阿南哲朗
 〃 短歌「病床雑詠」山下聖夫
 21 「秋の追憶」古賀浅星
 〃 短歌「秋ふかし」山瀬とし夫
 〃 短歌「山雀の歌」佐和谷芳緒
 〃 詩「私の死」八田ゆき緒
 28 「農民詩に対する新しい詩論」木戸逸朗
 〃 「一体何をすればいいんだ」小森静男 11・11完
 〃 短歌「夜ふけ」山瀬とし夫

- 11 1 記事「徳田秋声老還暦の祝賀会」
 6 「寛永己丑乱れ」直木三十五 7・10・26 293回完
 11 「最近の感想」神近市子
 短歌「勤務雑唱」山瀬とし夫
 詩「妻よー農夫の唄へるー」木戸逸朗
 短歌「疲れたる歌」大垣駿
 詩「燦んだ神経」妻川亮
 18 「西班牙文学の巨星アリソン」遠山宣二
 「展望」岩藤雪夫
 詩「詩三篇」武本龍夫
 詩「野原のきのふけふ」深田泥蓮
 詩「検挙された阿父」泉虹策
 短歌「磯浜の秋」八田ゆき緒
 詩「病院」三木史郎
 25 「時代の合鍵」室生犀星
 「批評家のプロフィール」新居格
 短歌「秋旅情」西出茶鳩
 詩「秋の息づかひ」築地朔太郎
 詩「風に吹かれて」武田幸一
 詩「楠の実」中島哀浪
 12 「新興国エストニアの文学」松岡福五郎 9日完
 2 短篇「食客懺悔」伊賀上栄

- 短歌「秋息」鈴木香芽二
 詩「冥福を祈るー逝ける藤井健一君に捧ぐ」木戸逸朗
 短歌「亡友を悼むー逝けるTCSHOI兄に捧ぐ」山下聖夫
 記事「福田三郎氏『福田文庫』を開く」
 9 短篇「或る女の話」莊草之助
 短歌「まゆみの実」佐和田芳緒
 詩「秋断草」大沢孤愁
 短歌「百姓ぐらし」築地朔太郎
 短歌「法要途上」高塚耕園
 民謡「諦めの歌ー山の乙女の唄へる」木戸逸朗
 16 「一九三一年の送年の感想」山田清三郎 23日完
 短歌「清州事件詠」竹中了路朗
 短歌「生活相」妻川亮
 短歌「初冬詠草」渥美稔夫
 「大衆文芸の批判に就て」青野季吉 23日完
 民謡「あかね雲」武田幸一
 俳句「独居」向木真弓
 詩「美の断片」木戸逸朗
 「最近のダンヌンツイヨ」原田謙次
 詩「古い恋」倉光稔
 昭和七年
 1 俳句「初鵝と猿曳」白田亜浪
 1 俳句「新年」矢田挿雲
 「次の戦争」池崎忠孝
 「モダン心理の解剖」赤神良謙
 短篇「どこにでも神様はいる」龍膽寺雄

- 短歌「新春五章」佐々木信綱
 短篇「深夜の訪客」甲賀三郎
 短歌「新年の歌」松浦翠子
 「芸術の階級性」吉田絃二郎
 短歌「正月の旅」窪田空穂
 「どん底にも天国あり」布利秋
 講談「柳田の勘忍袋」一龍齋貞山
 短篇「幸福な猿のお話」井上康文 3日完
 「最近の思想観」長谷川如是閑
 落語「千両密柑」三遊亭円生
 短篇「女学生」柳田民樹
 「文壇の一九三二年性」近藤比呂文 27日 3回完
 「文学界の三傾向」泉芳郎
 短歌「冬の妙観院」山下古木
 短歌「新春」柳原燐子
 詩「冬に立ちあがる」山田彌三平
 詩「淡雪」木戸逸朗
 記事「三宅やす子氏急逝す」
 短篇「計られた彼」川端藤吉 27日完
 短歌「病床吟」山下古木
 短歌「冬の庭」中村敏子
 詩「山村の年暮れ」深田泥蓮
 詩「北風」咲原好直
 短歌「冬の歌」乙村兵衛
 短歌「夜更けの街に」木村進市
 短歌「日記自選抄」八田ゆき緒
 「詩集『どん底の唄』を評す」山田彌三平
 短歌「亡き父への懺悔」松本貞村
- 詩「失恋」西原陽三
 詩「人生の憂鬱」飯高規矩
 「奉天より」中西生
 「此頃の文芸批評」立野信之
 「雪中の栗鼠」村松武雄
 詩「朝を讀ふ」やまむら幸一
 短歌「暮方に帰る」広島口之
 短歌「早春雜詠」八田ゆき緒
 「大衆文芸と労働者農民」窪川鶴次郎 17日完
 「ブルジョワ文学の社会的題材への傾向」田辺耕一郎 3・
 2 3回完
 短篇「さあびすの一形式」莊俊彦
 詩「和冬」宮沢一雄
 短歌「生活のうた」木村遙一
 詩「初春情景」福田自由朗
 「Sへの手紙」池田能雄
 詩「お天とう様のたはむれ」深田泥蓮
 詩「樹木のやうに」山村幸一
 詩「貧乏の唄」山田彌三平
 詩「抜錯作品抄」杉部正夫、長沖二郎、村本意志夫、藤田多喜夫、吉田浜之助
 短歌「つはものを送る」松村貞村
 「大衆文学の反動的役割」国木田虎雄 3・2完
 短歌「娑婆の正月」妻川亮
 短歌「人形」山村幸一
 詩「生活に喘ぐ」木村進市
 詩「梅の花」森田録雨
 詩「黄昏」山村幸一

- 詩「ほんのり」大関五郎
 詩「花嫁と花」木戸逸朗
 詩「爆弾勇士を悼ふ詩」山下古木
 「文壇は如何に自己を処置しつつあるか」
 「北陸詩壇不振の原因」谷内外茂二
 短歌「黒月抄」八田ゆき緒
 短歌「失題」木村進市
 「組織活動と創作活動の弁証的統一に就て」山田清三郎 23
 日完
 「俳句無陀話」平岩苔生
 詩「春断章」高崎清遙
 詩「霜が深いぞ」木戸逸朗
 詩「午前三時」林野貞夫
 詩「きいてくれ」山田爾三平
 短歌「三月のころ」武田大喜吉
 短歌「閑居吟」八田ゆき緒
 「詩聖ゲーテ逝きて百年」堀井実
 「春窓に語る」山村幸一
 詩「吹雪とランプ」深田泥蓮
 詩「春がきたのに」ときくに
 詩「三月の野良」高崎清逸
 「支那事変の刺戟」泉芳朗
 童謡「春の野道」木村遙朗
 童謡「回転木馬」松村久一「ひな祭り」舟木千草
 「上海戦地点描」喜多青磁 2日完
 「新興短歌其他と定型律」八田ゆき緒
 詩「娘つ売る」山田彌三平
 短歌「春日五首」斎藤茂吉
- 詩「頼れゆくもの」高崎清逸
 記事「蔵原惟人等」に続き中条百合子氏夫妻も引致
 「人間も一個の自動機械か」石井重美
 「慢性恐慌とアメリカ文学」池田正輝
 「春日雑筆」檜崎勤
 童謡「松原街道」木戸逸朗
 詩「春睡蓮」春日静地郎
 「命の最高峯」平山蘆江 12・4 221回完
 童話「文ちゃん」のむらひさし
 「思ひつくまゝに」矢田津世子
 「春の哀愁」矢野豊彦
 「初饗四十四」島藪秀男 27日完
 詩「四月の陽光」飯高規矩
 詩「隣の庭」阿倍哲朗
 民謡「忍び足」平野寿太郎
 短歌「春窓春日」山下古木
 「三月十五日」城夏子
 「春の女の醜と美」大田洋子
 「大衆文学雑誌」長谷川伸
 詩「あの父いま亡き」山村幸一
 詩「泣く」山田彌三平
 詩「弟の文」紙谷北陽子
 詩「村の出来事」畠に立つ人
 詩「玩具の兵隊」村上比呂志
 「国文教科書に現はれた現代文」西尾真
 「ファシズムと文学」伊福部隆輝 11・18日 3回完
 短歌「アバヨ」白石清子
 詩「秋やことに」山田彌三平

- 詩「犬の居る風景」 莊草五助
 詩「貧しいドライブ」 高崎清逸
 短歌「初夏慢詠」 山下古木
 童謡「燕の挨拶」 松村又一
 「ファッショ踊り」 十時三郎
 詩「蜘蛛の唄」 原田都夫
 詩「貝を握る」 阿南哲朗
 詩「桑畑」 持田勝穂
 短歌「春日秘唱」 沖島かもめ
 「農民作家は如何に組織さるべきか」 池田寿夫
 6・1
 3
 回完
 詩「春」 池水味津男
 詩「雨に濡れる」 中島四五六
 詩「チュリップの花」 山下古木
 「大鳳のやうな宇野浩二クン」 井伏鱒二
 詩「夕暮れの詩」 山村幸一
 詩「夜逃げ」 石川龍平
 短歌「兇弾事変」 高塚存信
 「酒を飲み乍ら書く三上於菟吉クン」 篠原文雄
 6
 1
 詩「空の垢」 島木志津夫
 詩「新しい想念を求む」 八田ゆき緒
 短歌「水郷情調」 山下古木
 「無類の努力家小林多喜二クン」 立野信之
 「日本の文壇を語る」 武野藤介 15日完
 「運転手と喧嘩した菊池寛クン」 酒井真人
 「四日間の日記」 池田能雄
 詩「初夏」 大関五郎
 詩「母の油絵をみて」 西山保
 12
 詩「日暮風」 高武陶村
 民謡「五月雨を唄ふ」 下田将夫
 「中村星湖クン」 篠原文雄
 「佐藤春夫クン」 城夏子
 詩「来るなら」 大関五郎
 童謡「水ぐるま」 円城寺英
 「地主と拳銃」 伊藤永之介
 「永井荷風クン」 日高基裕
 詩「血」 山村尖兵
 詩「追はれた小作男の話」 山田彌三平
 詩「思慕」 宮沢一夫
 短歌「藤と温泉」 中山盛好
 「血の笑ひ」 正木不如丘 8・23
 37回未完
 「探偵小説の流行」 松本泰
 詩「生活風景」 八田ゆき緒
 詩「五月の歌」 高橋兼一
 短歌「入梅前後」 出口春葩
 詩「耕人の文学」 深田泥蓮
 詩「樹木」 高崎清逸
 「銀座の柳など」 西条八十 30日完
 「猫の生命」 生方敏郎 3日完
 「古き思想と新しき思想」 中島徳蔵
 「ソビエット文学に就いて」 ポリス・ビリニヤーク
 7
 2
 詩「夏」 宮沢一夫
 詩「胡瓜畑から」 高崎清逸
 詩「すがき虫よる唄」 山田彌三平
 短歌「五月の歌」 高橋兼一
 「川柳今昔」 井上剣花坊 13日完

- 13 「大衆文芸流行の裏」 島影盟
詩「涙の踊」 大関五郎
詩「六月の雨」 沢口ひさを
詩「峠みち」 橋本野酔
- 14 「滞米中の古い思出」 野口米次郎 15日完
「赤城山で遭難の話」 大倉桃郎 17日完
「最近アメリカ文学の潮流」 山屋三郎 8・3 3回完
- 20 「小川菊松氏の『商戦30年』を読む」 重利俊郎
詩「妻」 八田ゆき緒
詩「冬の工場」 緒田浩
詩「稿の晴着」 石川龍本
「夏の随筆」 池田能雄
詩「人生」 西原陽三
詩「散歩」 俣野爾
詩「素材詩篇」 石原亮
詩「旧友への書信」 高崎清逸
- 27 「大衆雑誌」への私見」 木村毅
短歌「愛踊」 高橋兼一
短歌「月夜と行水」 西出茶鳩
詩「貧乏と母」 八田ゆき緒
「夏と作家生活」 立野信之、31日 3回完
短歌「アンダンテカンタビレ」 池田能雄
詩「鉄砲」 山田彌三平
短歌「百姓のうたへる」 神田茂雄
短歌「ものゝすがた」 山下古木
「失業三人組」 盆田甫
詩「再生の詩」 房山幸夫
詩「三月の夜あけ」 山田彌三平
- 8 3
31 短歌「近詠」 高橋兼一
「俳話」 高浜虚子 9・7完
詩「初秋詩篇」 高崎清造
詩「露宿」 山瀬とし夫
詩「製材工惣吉の死」 谷内外茂二
詩「破丘に築くえびそうど」 越智弾攻
「文学と農村生活」 泉芳明
詩「青白い微笑」 谷内外茂二
短歌「恨み」 八田ゆき緒
短歌「父逝く」 出口春葩
詩「ルンペンの歌」 西原陽三
「葦附」を語る」 藻谷六郎
「兄への手紙」 作原義直
「海のたより」 窪川いね子
詩「畦豆殻と女」 播磨浩三
詩「続初秋詩篇」 高崎清逸
短歌「蜘蛛その他」 神田茂雄
「新短歌に就て」 木戸芳二
「秋の空」 龍膽寺雄
詩「夕焼けに」 発野勢吉
「秋日病臥」 神田茂雄
短歌「秋風閑居」 諸家
「同人雑誌の出發」 猿倉幸夫
「秋を賞した詩人芭蕉に就いて」 武田太喜吉
短篇「兄妹」 岩藤雪夫 12日完
詩「石炭」 八田ゆき緒
詩「闘歌」 山田彌三平
短歌「黎明の歌」 高橋兼一
- 28 10 5
9 7
14 14
16 16
17 17
18 18
19 19
20 20
21 21
22 22
23 23
24 24
25 25
26 26
27 27
28 28
29 29
30 30
31 31
32 32
33 33
34 34
35 35
36 36
37 37
38 38
39 39
40 40
41 41
42 42
43 43
44 44
45 45
46 46
47 47
48 48
49 49
50 50
51 51
52 52
53 53
54 54
55 55
56 56
57 57
58 58
59 59
60 60
61 61
62 62
63 63
64 64
65 65
66 66
67 67
68 68
69 69
70 70
71 71
72 72
73 73
74 74
75 75
76 76
77 77
78 78
79 79
80 80
81 81
82 82
83 83
84 84
85 85
86 86
87 87
88 88
89 89
90 90
91 91
92 92
93 93
94 94
95 95
96 96
97 97
98 98
99 99
100 100

- 短歌「夏さる」山瀬とし夫
7 「秋の虫を語る」梶吉雄 9日 3回完
12 「踏切」に就て」高崎清逸、八田ゆき緒
「血みどろな人間」植見順一
詩「安全地帯」谷内外茂二
詩「秘事」植見みどり
詩「共同刈入れ」浅野勢吉
19 「独立祭」の出發」棚木一良
「農民文学の明朗性に就いて」土屋公平
短歌「秋情」山瀬とし夫
短歌「秋を聴く」安倍源太郎
詩「身辺詩篇」八田ゆき緒
26 「純粹文学と同人文学」歌枕緑野
「悲恋」の舞台について」山本玲三郎
「都会と田舎」青柳瑞穂 11・2完
詩「野の汗」深田泥蓮
短歌「秋窓雜詠」山下吉水
27 「茂平次兇状」行友李風
「プロレタリア文学確立のために」宇野暁汀
11 2 詩「雲」佐野欽一
詩「僕は苦しまう」高崎清逸
短歌「廓妻」植見さかみ
短歌「紅の花」井上たかを
6 記事「啄木が秘めし恋の書簡 幼な友達だった盛岡の小林博士が発見」
9 「閑古鳥」に就て」越野黙歩
「探偵小説雜考」水谷準 16日完
「白山風」を讀みて」殿田生

- 詩「雨の日の労働」作原義直
詩「仲坊―芸者の子」植見順一
詩「母」美行秀一
詩「怒濤」佐野欽一
短歌「秋日疎影」山下古木
「新しき恋愛觀」高群一枝 17日 3回完
16 「真実をうたふ―新雜誌に就いて」木戸逸朗
「文豪遺児物語」武野藤平 12・7 4回完
詩「女々しい告白」山村幸一
詩「雲ふる中で」友田恭子
短歌「大火慘景」西出茶鳩
18 「犬の話」川端康成 20日 3回完
23 「大衆と共に―プロレタリアートの使命」松本千冬
「父の死による自省」田島幽峰
短歌「立冬」山下古木
詩「職場の朝」佐野欽一
詩「掌上小詩」福島自由朗
30 「科学と宗教」富士川游
「愚」の価値―作家としての経験から」森田草平 12・7 完
短歌「ちいさなる慰め」梅松外二
短歌「病床日記」鈴見香芽二
12 1 「現代政治に於る国際主義と国家主義」長谷川如是 2日完
5 「青春悲歌」群司次郎正
7 「近代生活と昼間服に就いて」新居格 9日 3回完
詩「夜」室野春雄
短歌「冬の能登半島」山下古木
詩「初冬詩篇」福田自由朗

- 詩「行人」 八田ゆき緒
 「温泉場風景」 立野信之
 14 「女流文壇評判記」 XYZ 28日 3回完
 「狭客の話―大衆作家夜譚」 長谷川伸 21日完
 詩「冬民閑話」 福田自由朗
 詩「叩かれてゆく」 高崎清逸
 16 「江戸期の民間学者」 柳田国男 17日完
 「矛盾」 徳田秋声
 21 詩「醉狂雑曲」 房山幸夫
 詩「どっちの勝やろ」 山田彌三平

- 短歌「冬日唱篇」 山瀬とし夫
 22 「明治の女流作家」 長谷川時雨談 24日 3回完
 24 「藤村の努力を始め老作家達の一年間」 新居格
 25 「不振のプロ派作家と林房雄の事など」 新居格
 26 「空騒ぎに終ったファッショ文学」 新居格
 28 「伝説の鶴」 江古田耕
 「あの頃の話」 百田宗治
 短歌「楽屋」 成沢邦
 詩「かれら」 松川りゅう児